

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	6
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	8
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	9
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	10

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー第 29 回現地研修会 in 静岡市清水区・庵原川 開催報告

2025 年 10 月 5 日（日）に、第 29 回「小さな自然再生」現地研修会を静岡県静岡市清水区を流れる庵原（いはら）川にて開催致しました。

本研修会では、石倉かごを護岸材料としたニホンウナギ等の生育環境保全など小さな自然再生の取組みを、子ども達や若い力、市民、行政、企業等を巻き込み、更なる流域展開や他の河川への横展開を図ることを目標に、参加者みんなで石倉かご調査を体験し、また河川環境の見方や自然再生の進め方を専門家より座学で学び、今後の活動に向けたアイデアを交換しました。（令和 7 年度河川基金助成事業）

【日時】令和 7 年 10 月 5 日（日） 9：00～16：30

【主催】いはらの川再生 PJ 会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】静岡県静岡土木事務所、東海大学海洋学部水棲環境研究会、横砂自治会、静岡市環境局環境共生課、公益財団法人リバーフロント研究所

【会場】静岡県静岡市清水区横砂本町

<座学：横砂自治会館 / 現地：庵原川河口一葉橋>

【参加者】66 名

【プログラム】

■午前：小さな自然再生の実践 @庵原川

■午後：庵原川でできる小さな自然再生を考える座学

-庵原川での石倉かご設置などニホンウナギの生育環境保全活動の取組紹介（伏見直樹：いはらの川再生 PJ 会）

-小さな自然再生の方法と効果-今までの研究から分かった幾つかのこと-（萱場祐一：名古屋工業大学社会工学科）

-市民主導の川づくりが生み出す地域創造（坂本貴啓：金沢大学人間社会研究域地域創造学系）



本研修会の開催にご尽力頂きました現地関係者の皆様、講師皆様、そして参加された皆様に感謝申し上げます。

（JRRN 事務局・和田彰）

第30回 福井県三方上中郡若狭町・はす川等 「小さな自然再生」現地研修会

参加者
募集

～ 小さな自然再生で学ぶサケやアユの遡上環境改善～

開催日

令和7年11月3日 月・祝

【開催趣旨】 三方五湖自然再生協議会（自然護岸再生部会）では、はす川等の三方五湖周辺河川での自然再生に向けて、小さな自然再生を活用した多様な水辺環境の創出や、サケやアユをはじめとする魚類の遡上環境の改善などを打ち出しています。今回の研修会では、「そもそも小さな自然再生とはどんな取り組みなのか？」を知るとともに、はす川流域において地域で小さな自然再生を進めていくためのアイデアやヒントを、現地も巡りながら参加者とともに学び合います。

開催日時 令和7年11月3日（月・祝） 9:30～16:30（9:00～受付開始）

会場 福井県三方上中郡若狭町 <座学：リブラ若狭 / 現地：はす川、串小川>

対象 小さな自然再生に興味・関心のある方々

定員 50名（先着順）

参加費 無料

持ち物 雨具（少雨決行）、昼食

プログラム ※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。

※主催者側で行事保険に加入いたします。

※参加申込方法、会場へのアクセス、
問合せは裏面をご覧ください。

（9:30～10:30）開会 および はす川流域を知る @ リブラ若狭

- 開会挨拶（吉田丈人：東京大学 大学院農学生命科学研究科）
- 三方五湖自然再生協議会 自然護岸再生部会の取り組みと小さな自然再生への考え方（小林滉平：福井県自然環境課）
- はす川の特徴、地域資源としての価値（吉田丈人：東京大学、小林滉平：福井県）

（10:30-13:00）はす川流域を巡る @はす川、串小川

はす川の落合堰及び支川・串小川に設置されている落差工等を視察し、生き物の視点から自然環境や課題等を学びます。

■現地指導講師：田原大輔（福井県立大学 海洋生物資源学部）、岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）

（13:00～14:00）昼食

（14:00～16:30）はす川流域でできる小さな自然再生を考える座学研修 @ リブラ若狭

- サケの生態、はす川流域や三方五湖周辺での遡上状況
（田原大輔：福井県立大学 海洋生物資源学部）、（柘植卓実：福井県海浜自然センター）
- できることから始めよう～水辺の小さな自然再生～（和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所）
- はす川流域でできることを考える（ミニワークショップ）

（16:30）閉会



ホームページ QRコード



河川
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：三方五湖自然再生協議会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

協力：福井県、若狭町、日本野鳥の会福井県、三方五湖ラムサールクラブ、
公益財団法人リバーフロント研究所

会場のご案内

研修会場

リブラ若狭（2階 研修室）

〒919-1333

福井県三方上中郡若狭町中央1-2



※研修会場へは **公共交通機関** または **お車** でお越し下さい。

※公共交通機関を利用してお越しになる方へ
J R 小浜線の「三方駅」から徒歩15分
（往路参考）敦賀駅 7:12発→三方 7:45着
小浜駅 8:06発→三方 8:38着

申込み方法

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申込み下さい。

申込〆切日：令和7年10月28日（火） 17:00

E-mail：info@a-rr.net

項目	記入欄
(ふりがな) 氏 名	
所 属	
連絡先	〒
	住所：
	電話：
	Email：

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 （担当：和田彰・森本洋一）

〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 （公財）リバーフロント研究所内

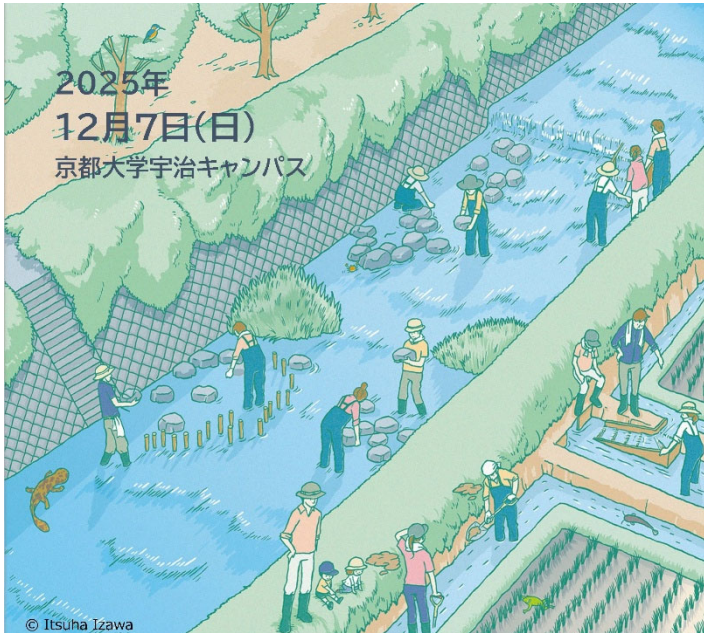
Tel: 03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー「小さな自然再生サミット 2025 京都大会」ご案内



2025年
12月7日(日)
京都大学宇治キャンパス

© Itsuha Izawa

第2回 小さな自然再生サミット 2025 京都大会

12/6(土) サイドイベント 12/7(日) サミット @京都大学宇治キャンパス

※事前申込制 【参加費】無料 【定員】300名(先着申込順)

■ 小さな自然再生研修会 in 大上川
13:00 南彦根駅(JR琵琶湖線) 集合
13:00-16:30 座学+現地研修会

■ 懇親会
18:00-20:00 @京都駅周辺

10:00 サミット開会
10:10-12:30 全国事例発表
12:30-13:30 昼食&ポスター交流
13:30-16:00 パネルディスカッション
16:00-17:00 茶話会
17:00 サミット閉会

【主催】小さな自然再生サミット実行委員会

サミット案内ページ

水辺で取組む小さな自然再生の更なる深化と拡がりに向けて、全国で取組む仲間が集い、相互交流を通じて今後の新たな活動や協働に展開していくことを目的に、「小さな自然再生サミット 2025 京都大会」を開催致します。

- 日時 : 2025 年 12 月 7 日 (日) 10:00~17:00
- 場所 : 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラ
- 主催 : 小さな自然再生サミット実行委員会
- 後援 : 国土交通省、環境省、リバーフロント研究所
- 協賛 : 現在募集中 (～10月末)

サミットの前半では、全国で小さな自然再生に取り組む方々より5分前後で活動をご紹介します。9月下旬から10月上旬まで事例発表団体を公募した結果、北海道から九州まで全国17道府県より計30の事例発表をエントリー頂きました。サミットで発表頂く団体及び発表タイトルは、10月下旬までにホームページやfacebook等で公開させていただきます。

■ 実行委員長 :

中村 太士 (北海道大学大学院農学研究院 名誉教授)

■ 実行委員

(五十音順)

氏 名	所 属
今井 洋太	神戸市立工業高等専門学校
伊豫岡 宏樹	九州産業大学建築都市工学部
佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学センター
杉野 伸義	KANSOテクノス
瀧 健太郎	滋賀県立大学環境科学部湖沼流域管理研究センター
竹内 えり子	建設技術研究所
武田 みゆき	日本環境NPOネットワーク
田原 大輔	福井県立大学海洋生物資源学部
林 博徳	九州大学工学研究院環境社会部門
原田 守啓	岐阜大学 高等研究院環境社会共生体研究センター
町田 善康	美幌博物館
三橋 弘宗	兵庫県立人と自然の博物館
山下 慎吾	環境省自然環境局生物多様性センター

■ 事務局 :

事務局員 : 佐藤 充人、白尾 豪宏、鈴木 敏弘、和田 彰
(公益財団法人リバーフロント研究所)

<協賛団体を募集中>

現在、10月30日(木)を申込期限として、本サミットの趣旨にご賛同いただく企業や団体様より協賛金を募集しております。ご協賛のご依頼の詳細(含:協賛金申込書)につきましては、本ページ末尾に記載のサミット案内ページよりダウンロードをお願いします。

<サミット参加者を募集中>

本サミット及び前日のサイドイベントに参加を希望する方は、以下のURLより参加フォームに記載の上お申込み下さい。

(サミット:参加費無料、定員300名、先着申込順)

■ 参加申込ページ URL :

<https://e-ve.event-form.jp/event/113571/collaboriversummit2025>

※募集期間 : 2025 年 11 月 21 日 (金) まで

12月7日(日)は京都にてお会いしましょう!

(JRRN 事務局・和田彰)

「小さな自然再生サミット 2025 京都大会」案内ページはこちらから!

<https://www.rfc.or.jp/collaboriversummit2025.html>

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

国際交流活動－ARRN 年次活動 2025 報告 (第 19 回運営会議／第 21 回国際フォーラム)

2025 年 9 月 8 日 (月)、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の理事会に相当する「第 19 回 ARRN 運営会議」をオーストラリアのブリスベン市にて開催し、日中韓の各 ARRN メンバーが参加し、ARRN の次年度活動計画等について審議を行いました。

本運営会議の前には、ARRN とオーストラリアに本部を構える国際河川財団(International RiverFoundation)との連携協定の調印式も行われました。



ARRN と国際河川財団の連携協定調印式

その後開催された ARRN 運営会議では、ARRN 会長及び ARRN 事務局が中国 CRRN から韓国 KRRN に 6 年振りに移管され、これから 1 年間の活動計画として、アジア河川賞の創設に向けた準備、ARRN 会員拡大に向けた戦略、ARRN メンバーによる連携プロジェクト推進に向けた ADB との協議準備、また次期 ARRN 会合の開催地について議論をしました。



ARRN 運営会議の様子

また、同日午後からは、ARRN 主催「第 21 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」を、第 26 回国際河川シンポジウム(26th International Riversymposium)の分科会として「Ecological healthy rivers support sustainable social development」をテーマに開催しました。

日本 JRRN、中国 CRRN、韓国 KRRN より各 2 題の発表があり、日中韓の最新の研究や事例を関係者で共有しました。

Program for the 21st Technical Seminar of ARRN

Topic: Ecological healthy rivers support sustainable social development

Time: 13:55-16:20, September 8th, 2025

Venue: STAR Brisbane, Australia

Organizers: Asian River Restoration Network (ARRN), China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR)

Time	Presentation and Q&A	Speaker	Moderator
13:55-14:00	Introduction		XU Fengran Professor IWHR (CRRN)
14:00-14:20	Successes and failures of river restoration in Japan.	TSUCHIYA Nobuyuki Ph.D. Chairperson of JRRN Japan Riverfront Research Center (JRRN)	
14:20-14:40	Comprehensive river restoration plan centered on covered urban streams.	JANG Suk-Hwan Professor Daejin University (KRRN)	
14:40-15:00	Ecosystem responses to aquatic vegetation restoration and biomanipulation strategies in shallow lake.	ZHANG Jing Professor IWHR (CRRN)	
Coffee&Tea break (10 min)			
15:10-15:30	Suggest of a new river environment management method based on understanding river topography and land cover conditions through remote sensing.	MORIMOTO Yoichi Researcher Japan Riverfront Research Center (JRRN)	
15:30-15:50	Development of a SVM and establishment of consultative group for emergency response to water shortage.	LEE Jae-Kyoung Professor Daejin University (KRRN)	
15:50-16:10	Systematic Assessment of Ecosystem Service Values of Water Conservancy Projects.	ZHANG Jian Researcher IWHR (CRRN)	
16:10-16:20	Closing and Group Photo		



ARRN 国際フォーラム後の集合写真

10月



千葉市花見川



あの日のあの川 リレー日記 ～第82話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第82話主人公 菊池恭士郎

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県利根川)

「あの秘密の場所」

いつのこと？：小学生のころ

どの川？：花見川(千葉県千葉市)

こんにちは。白川研究室所属の菊池です。「あの日あの川」ということで自分が小学生だったころによく遊んでいた家からすぐ近くの川である花見川が思い浮かんだのでその思い出についてお話させていただこうと思います。

いつも遊んでいた川沿いの公園。そこにはたくさんの小学生が集まっていて一緒に遊んだりもしていました。帰宅してはランドセルを放り投げて公園に向かい、鬼ごっこをしたりサッカーをしたりで過ごす日々でした。3年生の夏ごろ、そんな同じような毎日

を一変させる刺激的な経験がありました。ある日、いつものように公園で遊んでいたのですが、6年生の近所のお兄ちゃんもその公園で遊んでいました。ちょっと休憩をしていると突然、そのお兄ちゃんが「いいところ連れて行ってやるよ」と言い出しました。お兄ちゃんに連れられて裏道のような路地を抜けると目の前に花見川が広がっていました。僕らにとっては初めての川の世界への入り口でした。

その日から僕たちはその秘密の場所の常連になりました。水かさぐつと減る時があり、普段は見ることができない川底が見える日がチャンスでした。夏の暑い中、ひんやりとした水や泥の感触、カニや小さい魚などの普段は見つけることのできない生物など飽きることのない世界でした。川の中には忘れ去られてしまったような自転車やタイヤ、靴などのごみが沈んでいたりしました。大人からすればただのゴミで環境的にもよくないことだったかもしれませんが、あの頃の僕たちにとっては見つかるだけで楽しくてまるで宝探しでした。そしてその見つけた宝物をどんな人が置いていったのかとかどうしてここにあるのかなんてことを考えることもなぞ解きをしているみたいでとても楽しい遊びになり、飽きることを忘れさせてくれました。川そのものが楽しかった僕たちは水嵩が多い日は釣りをしているおっちゃんにどんなのが釣れるのか、どうやって釣るのかを教えてもらったりもしました。

しかしそんな日は永遠ではなく、僕らにとって隊長のような存在だったお兄ちゃんも卒業してしまい、この秘密の場所もなんだか遠いものに感じてしまい、徐々にいなくなってしまうました。そして自分が6年生になった夏、ふとあの夏を思い出し、弟とその友達を連れてあの場所へ向かいました。その時の弟たちの楽しそうな表情だったり新鮮なリアクションは初めてこの場所に来たことを思い出させてくれました。あの頃あんなに大人に感じたお兄ちゃんと同じように今自分もこの場所を伝えていると思うと少しだけ大人に近づいたような気がしてうれしかったのを覚えています。

今思うと少し危なかったかなんてと思いますが、地元にこんな経験をさせてくれる環境があって恵まれていたなと感じます。あの頃と同じ気持ちで川で遊ぶことはもうなかなかできませんが、このような機会をいただいて思い出を書き起こすことで鮮明に思い出すことができてうれしく思います。ありがとうございました。

(次は戸田一步君にバトンを託します)

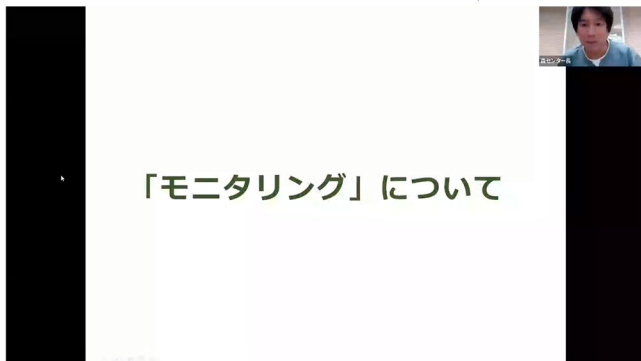
「リバフロサポートセンター」からのお知らせ RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第 17 回ウェブセミナーを開催しました！ 次回は 10 月 29 日開催予定です！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：吉川寛朗）

■第 17 回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第 17 回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を令和 7 年 10 月 1 日（水）に開催しました。

第 17 回目は、環境定量目標の検討に役立つ QA に関連して、「河川環境行政の動向」と題して、国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課の鶴田企画専門官から、「」と題して（公財）リバーフロント研究所の白尾主任研究員から、「」と題して国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター 森照貴センター長からご紹介いただきました。

参加申込者は、行政関係者が約 4 割、コンサルタント関係者が約 5 割で全体の約 9 割を占めており、合計で 382 名の方々に参加申込いただきました。

また、当日は、定量化すべき指標についての質問やモニタリング計画を設定する場合の調査期間、回数などモニタリングに関する具体的な質問等をいただきました。参加者の皆様には活発なご議論をいただきありがとうございました。

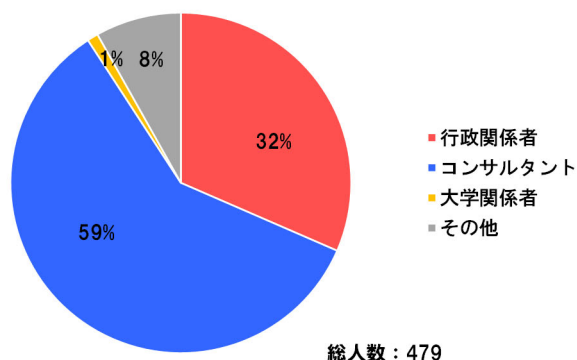


図 参加申込者の職種分類

＜第 17 回 ウェブセミナー開催概要＞

- 開催日時：令和 7 年 10 月 1 日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェビナー
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：環境定量目標の検討に役立つ QA
- プログラム：
 - ① 河川環境行政の動向
講演者：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 企画専門官 鶴田舞
 - ② 環境定量目標の検討に役立つ QA の紹介
講演者：公益財団法人リバーフロント研究所 主任研究員 白尾豪宏
 - ③ Q9-1 自然環境に関連した河川整備を実施する上でモニタリングのポイントを教えてください。
講演者：国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター 森照貴 センター長
 - ④ 意見交換
- CPD：1.0 単位（土木学会認定）

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は 10 月 29 日開催予定です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。次回の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下の URL をご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2025 年 9 月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■「大河川における多自然川づくりセミナー 第 18 回『どうすれば良い？大河川における多自然川づくり～治水と環境の統合：地域と連携した豊かな水辺空間の創造～』(2025 年 10 月 29 日)」のご案内

リバロサポートセンターより、(2025 年 10 月 29 日(水))に開催する第 18 回大河川における多自然川づくりセミナーのご案内です。

大河川における多自然川づくりのノウハウを共有していくため、連続セミナー「どうすれば良い？大河川における多自然川づくり」を ZOOM ウェビナー形式で開催します。

今回のセミナーでは、「治水と環境の統合～地域と連携した豊かな水辺空間の創造～」と題して株式会社吉村伸一流域計画室 代表取締役 吉村伸一氏よりご講演いただきます。

■申込フォーム <https://forms.gle/rnk48jP868zRd3dT6>

【日時】令和 7 年 10 月 29 日(水) 16:00～17:00

【形式】ZOOM ウェビナー ※応募締切: 10 月 24 日(金) 17:00

【プログラム】

■講演 治水と環境の統合～地域と連携した豊かな水辺空間の創造～

■意見交換

<詳細は以下参照>

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4419.html>

第 18 回 どうすれば良い？大河川における多自然川づくり
治水と環境の統合
～地域と連携した豊かな水辺空間の創造～
2025.10/29 (水)
時間 16:00～17:10
形式 Zoom ウェビナー
株式会社吉村伸一流域計画室
代表取締役 吉村 伸一

●プログラム

時間	内容
16:00～	吉村伸一氏による講演
16:40～	意見交換

多自然川づくりでは、治水と環境の統合が大きなテーマです。今回のセミナーでは、地域と川のつながりの歴史を踏まえながら、水辺空間をより魅力的にしていく考え方を紹介します。堤防拡張と生態系の継承を実現した宮川(三重県)の事例等をもとに解説します。
(開演する QA: Q5-1, Q5-2)

CPD 1.0 単位※
土木学会 申請中

参加無料
先着 500 名

お申込み方法
下記 URL または QR コードから、お申し込みください。
<https://forms.gle/rnk48jP868zRd3dT6>

●大河川における多自然川づくりセミナーの目的
本セミナーは、「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」を基に、参加者に寄り、大河川における多自然川づくりへの理解を深めることを目的としています。

●大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～とは？
本書では、大河川における多自然川づくりを実現するため、環境で発生する課題を Question とし、これに Answer として答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。
※本書 Q&A のダウンロードはこちらから
<https://www.a-rr.net/jp/news/member/4419.html>

事務局 公益財団法人リバーフロント研究所 (リバロサポートセンター)
お問合せ: daikasen2021@rfc.or.jp 担当: 崎谷・吉川

【JRRN 会員からの提供情報】

■「第 33 回リバーフロント研究所研究発表会(オンデマンド配信)」を令和 7 年 10 月 30 日(木) 13:00 より配信開始

令和 7 年 9 月 26 日に東京ウィメンズプラザで開催された「第 33 回リバーフロント研究所研究発表会」の様態を抜粋して、令和 7 年 10 月 30 日(木) 13:00 より配信を開始いたします。

* 令和 7 年 10 月 30 日(木) 13:00 以降、お好きな時間に何度でも視聴できます。

* 令和 7 年 10 月 30 日(木) 13:00 を過ぎてもこの画面が表示される場合は、お手数ですがこのページをリロードしてください。

* 土木学会認定 CPD プログラム(3.0 単位)に認定されています。

※土木学会継続教育(CPD)の単位取得申込方法について

「第 33 回リバーフロント研究所研究発表会(オンデマンド配信)」は土木学会継続教育(CPD)制度のプログラムに認定されています。

CPD を希望される方は、認定にあたり、開催・公開日時から 2 週間以内(令和 7 年 11 月 13 日(木) 13 時まで)に履修手続きが必要で

必要です。

CPD をご希望の方は、視聴前に下記 URL よりお申し込みください。

【お申込み URL】

https://e-ve.event-form.jp/event/115403/33th_ondemand

◆詳細は以下参照

https://www.rfc.or.jp/ivent2025_hokokukai.html

第 33 回 リバーフロント研究所研究発表会(オンデマンド配信) プログラム

日時: 令和 7 年 10 月 30 日(木) 13 時 00 分より配信開始 視聴無料
URL: https://www.rfc.or.jp/ivent2025_hokokukai.html

・基調講演(敬称略) (約 60 分)
社会・物理環境から位置づける私たちの well-being
……………神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻 助教 打田 篤彦

- ・研究発表
1. 狩野川水系柿田川における在来水生植物の生育ポテンシャルマップを用いた自然再生の検討と実施 (約 20 分)
……………自然環境グループ 研究員 伊藤 岳
<現 復建調査設計株式会社>
 2. 境川かわまちづくり推進検討 ～境川かわまちづくりの活動内容と現状評価～ (約 18 分)
……………水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 仁田原 汀
 3. 河川における自然環境の定量的目標設定に関する研究 (約 41 分)
……………自然環境グループ 主任研究員 白尾 豪宏
 4. 河川水辺の国勢調査による順応的な河川環境管理の提案 ～植生景観と指標植物～ (約 20 分)
……………自然環境グループ 研究員 鈴木 敏弘
 5. 水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究 (約 21 分)
……………水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 和田 彰
<現 自然環境グループ>

令和 7 年 9 月 26 日に東京ウィメンズプラザで開催された様態を抜粋して配信いたします。

本研究発表会は、土木学会継続教育(CPD)制度のプログラム(3.0 単位)に認定されています。CPD を希望される方は、認定にあたり、開催・公開日時から 2 週間以内(令和 7 年 11 月 13 日 13 時まで)に履修手続きが必要で

※令和 7 年 9 月 26 日開催(於: 東京ウィメンズプラザ)で CPD 単位を取得された方はごち

の申込みはできません。

【お申込み URL】

https://e-ve.event-form.jp/event/115403/33th_ondemand

※CPD をご希望でない方は、上記お申込みは不要です。



会議・イベント案内 (2025 年 10 月以降) Event Information

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■第 29 回水シンポジウム 2025 in やまなし

○日時：2025 年 10 月 24 日 (金) ～25 日 (土)
 ○主催：「第 29 回水シンポジウム 2025 in やまなし」実行委員会
 ○場所：リッチダイヤモンド総合市民会館 (山梨県甲府市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3639.html>

■第 30 回「小さな自然再生」現地研修会 in 福井県若狭町・はす川等

○日時：2025 年 11 月 3 日 (月・祝) 9:30～16:30
 ○主催：三方五湖自然再生協議会、JRRN 他
 ○場所：福井県三方上中郡若狭町
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1557.html>

■応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 熊本

○日時：2025 年 11 月 8 日 (土) ～9 日 (日)
 ○主催：応用生態工学会 普及・連携委員会
 ○場所：人吉市カルチャーパレス (熊本県人吉市) 他
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3663.html>

■第 27 回河川生態学術研究発表会

○日時：2025 年 11 月 13 日 (木)
 ○主催：河川生態学術研究会
 ○場所：東京証券会館 8F ホール (東京都中央区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3665.html>

■第 16 回 SJS 交流ウェビナー「スイスに学ぶネイチャーポジティブな川づくりの最前線」

○日時：2025 年 11 月 26 日 (水) 17:00～18:30
 ○主催：SJS スイス-日本サステナビリティ交流会 他
 ○場所：オンライン形式
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3669.html>

■小さな自然再生サミット 2025 京都大会

○日時：2025 年 12 月 7 日 (日) 10:00～17:00
 ○主催：小さな自然再生サミット実行委員会
 ○場所：京都大学宇治キャンパス (京都府宇治市)
<https://www.rfc.or.jp/collaboriversummit2025.html>

冊子等の紹介 Publications

■ はじめての魚の居場所づくり vol.2



この冊子は、小さな自然再生のハンドブックとして、魚にとって大切な場所について理解し、魚の居場所づくりに取り組む際のヒントを分かりやすくとりまとめたものです。

全国の水辺の小さな自然再生の担い手の皆様にとって更なる意欲と活力につながり、地域に根差した川づくりの更なる推進に寄与すれば幸いです。

→ダウンロードページはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/375>

●制作：

滋賀県立大学大学院
 (泉野珠穂・安田希亜良・瀧健太郎)
 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

●発行：

滋賀県流域政策局、
 滋賀県立大学大学院流域政策・計画学研究室
 公益財団法人リバーフロント研究所

●発行年月：2024 年 8 月

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>